

HAMAGINSOUKEN NEWS



2006年3月20日

改善が続く神奈川県内中堅・中小企業の景況感

企業経営予測調査2006年3月調査結果より

(株)浜銀総合研究所(社長遠山悌二郎)は、神奈川県内の中堅・中小企業を中心としたアンケート「企業経営予測調査」の2006年3月調査を実施いたしました。今般、同調査のなかで最も注目度が高いと思われます業況判断D.I.の集計結果がまとまりましたのでご案内いたします。

要 旨

神奈川県内中堅・中小企業の2006年3月末時点における業況判断D.I.(全産業ベース、業況が「良い」-「悪い」、回答社数構成比、%)は8となった。前回の2005年12月調査(10)に比べて2ポイント改善し、2期連続で「悪い」超幅が縮小した。

今回の業況判断D.I.値を製造業、非製造業の別にみると、製造業では前回調査の+1から今回4へと5ポイントの悪化となった。業種別には一般機械や鉄鋼・非鉄などで「良い」超幅が拡大した一方で、輸送機械と金属製品が「悪い」超に転じている。

一方の非製造業は前回の19から11へと8ポイント改善した。業種別には運輸・倉庫が低下したものの、サービス業が1991年12月調査以来の「良い」超に転じたほか、建設と卸・小売でも「悪い」超幅が縮小している。

3か月先(2006年6月末)の見通しについては、製造業の悪化が続き、非製造業も横ばいが見込まれていることから、全産業ベースの業況判断D.I.値は10と3月実績に比べて2ポイントの低下が予想されている。

このように県内企業の景況感は先行きに対しては依然として慎重であるものの、足元は改善が続いており、今後も県内景気は緩やかな回復が続けると考えられる。

【本件についての問い合わせ先】
(株)浜銀総合研究所 調査部 新瀧
電話 045-225-2375(ダイヤル)

E-mail: shintaki@yokohama-ri.co.jp

企業経営予測調査

2006年3月実施

四半期別(第139回)結果

対象企業 神奈川県内の中堅・中小企業を中心とした781社
(うち製造業302社、非製造業479社)

回収率40.8%(回答企業319社うち製造業144社、非製造業175社)

業況判断D.I.

(2006年3月末)

神奈川県内中堅・中小企業の2006年3月末時点における業況判断D.I.(全産業ベース、業況が「良い」-「悪い」、回答社数構成比、%)は8となった。前回の2005年12月調査(10)に比べて2ポイント改善し、2期連続で「悪い」超幅が縮小した。

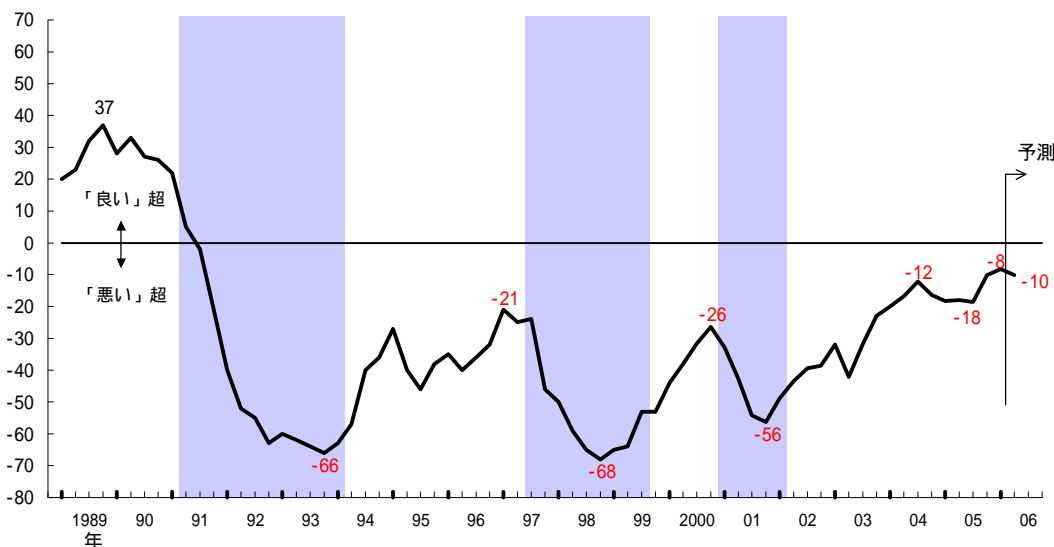
製造業、非製造業の別にみると、製造業は前回調査の+1から今回4へと5ポイント低下し、「悪い」超に転じた。業種別には一般機械や鉄鋼・非鉄、電気機械で「良い」超幅が拡大している。一般機械は、内外の設備投資拡大を背景として販売価格の低下に歯止めがかかったことが景況感の改善につながったとみられる。また、鉄鋼・非鉄では昨年終盤の生産調整の反動から生産や収益などが上向いている。電気機械については採算面が厳しいものの、生産面などは昨年終盤からの持ち直しが続いている。

反面で、輸送機械と金属製品では景況感が悪化して、「悪い」超に転じた。輸送機械は国内乗用車販売の不振を反映して、受注に陰りがみられたことや納入価格の低下が続いていることがマインドの低下につながったとみられる。また金属製品では、仕入れ価格の上昇が続くなかで損益が悪化しており、表面処理メーカーなどでは受注の大幅な減少がみられた。

業況判断D.I.の推移

全産業

業況が「良い」-「悪い」、回答社数構成比、%



(注1) 各年の調査月は3、6、9、12月である。

(注2) シャドーは景気後退期を示す。

一方の非製造業は前回の 19から 11へと8ポイント改善した。業種別には運輸・倉庫が低下したものの、サービス業が1991年12月調査以来の「良い」超に転じたほか、建設と卸・小売でも「悪い」超幅が縮小している。サービス業では昨年7～9月期から売上高が増加傾向にあり、今回調査では損益動向D.I.が2003年4～6月期以来の「好転」超となっている。建設は、業況判断D.I.が依然として大幅な「悪い」超であるものの、前回調査に比べれば「悪い」超幅が大幅に縮小した。建設投資増を背景に、収益面は改善傾向にあり、受注動向D.I.が1995年1～3月期以来の「増加」超となった。

(3か月先の見通し)

2006年6月末時点の業況判断D.I.は、全産業で 10と3月末実績の 8に比べて2ポイント低下する見通しとなっている。

製造業では、金属製品が「良い」超に転じるものの、他の主要業種では景況感の悪化が見込まれていることから、全体でも今回調査の 4から 9へと「悪い」超幅が拡大する見通しとなっている。

一方、非製造業ではサービス業でマインドが悪化する反面で建設など他の3業種は改善予想となっていることから、全体のD.I.値は 11と3月末実績比横ばいとなる見通しである。

足下の業況判断D.I.と3か月先の見通し

(業況判断D.I.:業況が「良い」マイナス「悪い」の回答社数構成比、%)

区 分	2005年 9月末	2005年 12月末	2006年 3月末	2006年 6月末 (予想)
全 産 業	18	10	8 (7)	10
製 造 業	6	1	4 (5)	9
電 気 機 械	24	7	8 (7)	5
輸 送 機 械	4	19	5 (23)	14
一 般 機 械	0	0	22 (4)	7
鉄 鋼・非 鉄	42	25	43 (25)	14
金 属 製 品	6	11	8 (28)	8
非 製 造 業	29	19	11 (16)	11
建 設	42	36	24 (27)	19
運 輸・倉 庫	7	0	14 (15)	10
卸 ・ 小 売	41	19	15 (20)	12
サ ー ビ ス	15	14	2 (5)	5

(注) カッコ内は前回2005年12月調査時点における3月末予想である。

以 上